

年末年始のお休みに

ポーランド

に行ってみませんか？

ポーランドといえば、安く入手できるからと個人輸入をしてしまう人もいるほどの人気食器、ボレスワヴィエツ(Boleslawiec)の食器を思い浮かべますね。ドイツ・ベルリンから車で2時間強の位置にあるこの街に、すでに行かれたことがある方もいらっしゃるでしょう。8月末には陶器市が開かれ、街は一段と活気づくそうです。

今回は、さらに遠いワルシャワについてお話ししましょう。ベルギーからワルシャワまでは、飛行機で1時間半で行けます。ワルシャワへの週末旅行を企画しました。



かつては【東のパリ】とも呼ばれたワルシャワでしたが、第二次世界大戦でのナチスによる爆撃で、街の85%は焼け野原となってしまいました。戦後から1989年まではソ連(現ロシア)の影響下で、【煉瓦をワルシャワに！】

というキャンペーン(《Bricks for Warsaw》 campaign)が展開され、様々な建物を作っていました。一番有名なのが、後で紹介する文化科学宮殿(Palace of Culture and Science)です。

破壊された建造物が次々に復元されて、1980年にOld Town(旧市街)は、世界遺産に登録されました。そして、1989年の東欧革命でポーランドの共産主義は終わりを告げ、2004年にはEUに加盟するという歴史の流れとともにワルシャワの街も変わってゆき、モダンなビルがどんどん建てられ、西欧のフランチャイズ店なども上陸しています。

ワルシャワのメイン空港であるショパン空港から街中までは、車で20分~30分くらいです。電車やバスでも行けるようです。

<電車で>

www.globalrailwayreview.com/news/14790/new-railway-link-between-chopin-airport-and-the-city-centre-is-open

<バスで>

www.lotnisko-chopina.pl/en/public-transport.html

街に入ってまず目に付くのは文化科学宮殿の建物で、ワルシャワの街の何処からでも見えると言われるので、道に迷いそうになったら、そこを目指せば自分の位置を確認することができるかもしれません。

文化科学宮殿はスターリン様式で建てられており、似たような建物が現在のロシアにはいくつもあると、ポーランドで出会った人が写真を見せてくれました。共産主義を象徴する独特なデザインで、革命後には、ワルシャワの人々の間で、そのビルを取り壊せ、いや、残すべきなど、複雑な思いがあったようです。

塔の高さは49メートルもあり、総室数は3,288室。共産主義崩壊後は、企業のオフィスが入居し、中には8つのスクリーンがある映画館、4つの劇場、2つの博物館、大きなプール、3,000人収容できる会議場が入っているとのこと。四角いビルの各面には、微妙に違う『顔』があるので比べてみてください。

文化科学宮殿のそばには地下鉄の駅やバスセンターがあり、ここを出発点として他の観光に移動するのに便利です。世界遺産の『旧市街』は、ここから北へ約3キロくらいの場所にあります。爆撃でほとんど焼失しましたが、残った瓦礫を集めて利用して、多くの部分を再現するよう、市民たちが努力したそうです。

ガイドの説明によりますと、戦後は食べ物も住む場所もなかったけれど、旧市街の再現のために働く者たちには、住居を与えられたので、今で言うボランティアで建設を手伝った、とのことでした。ボランティアとは聞こえがいいですが、タダ働きで、しかし労働期間中は食住が与えられるということで、参加した人は多かったそうです。

このように名は旧市街でも、古さをあまり感じさせない場所です。お土産屋さんや地元料理の店もたくさんありますので、訪ねてみてはいかがでしょうか。





文化科学宮殿から東方向に20分ほど歩くと、『Chopin Museum(ショパン博物館)』があります(<http://chopin.museum/en/information/visitors/id/222>)。地下もあるおしゃれな外観の建物です。入り口の扉は重厚な作りで、果たして開館しているのか、開けてもいいのかと戸惑うような、普通の博物館とは違う雰囲気でした。

内部には、ショパンが使ったピアノや手書きの楽譜、手紙などがあり、彼の女性関係についてもうかがい知ることができます。ショパン自身はいろいろな国を旅しているの、それらの資料が時系列で並べられていて、訪問国とそれらの国のショパンに関する品々や絵なども展示されていました。

ヘッドフォンで音楽を聞いたり、踊り場に立つと自動的に曲が流れたり、引出しを開けるとスピーカーから曲が聞こえたりと、ただ見るだけの博物館とは違うのです。

せっかくだから、ショパン関連のお土産を沢山買おう！と思ったのですが、館内にショップはありませんでした。一時的なものなのか、恒久的に無いのか、知りたいところでしたが。

入館人数は、1時間に70人と制限されていますので、予約してから入館することをお勧めします。



ポーランドの郷土料理と言えばピエロギ(Pierogi、ラビオリのようなもの)です。白チーズとジャガイモのピューレが入ったピエロギをゆでて、玉ねぎとベーコンなどを炒めたソースをかけて食します。ピエロギの中身は、白チーズとジャガイモですが、それに玉ねぎやきのこを炒めたものを追加して、味に変化をつけたりもします。



今回は、行く前に地元のポーランド人にお勧めのレストランをいくつか挙げてもらいました。その中で特にイチオシで、多くのポーランド人が利用し、私自身も訪れたところがレストランStary Domです。街の中心から車で15分~20分の静かな場所にあります。店内は非常に広いのですが、たくさんの客が訪れるので、席を確保するには、予約をしてから出かけるのがよいでしょう(私はホテルのレセプションの人に予約を頼みました)。

www.restauracjastarydom.pl/restaurant-old-house

このピエロギは、もちろん美味で種類も豊富です。ベルギーでいう「フィレ・アメリカン(生肉料理)」は、シェフが客のテーブルの横で生肉の塊をたたいて作ってくれます。他にも火を噴くフランベ料理など、目の前で作ってくれるというのが特徴とのことです。別のレストランでもピエロギを食べる機会がありましたが、どれもまろやかな味でとても食べやすかったです。ポーランドに行かれたら是非試してみてください。

文化科学宮殿のすぐ隣には、波を打ったようなガラスの屋根の下に巨大なショッピングセンターがあり、現代のワルシャワを楽しめます。西欧文化を取り入れている新しい東欧の街ワルシャワ。2~3泊して回ってみたい街です。ベルギーに滞在している間に是非訪ねてみてください。

